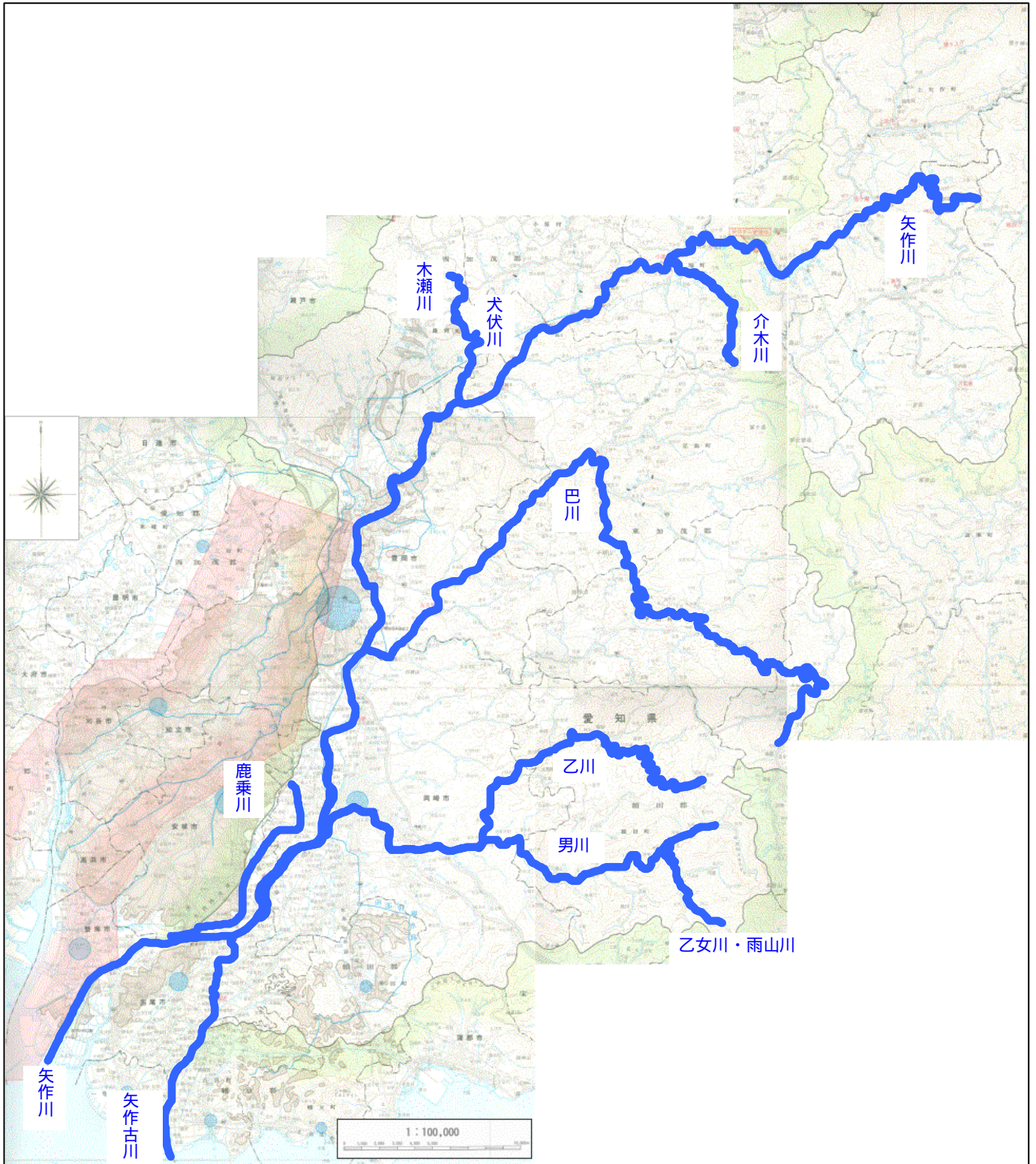


矢作川水域における類型指定を行うために必要な基礎情報

目 次

1	矢作川	1
2	巴川	9
3	乙川	13
4	鹿乗川	18
5	矢作古川	21
6	けんぎ 介木川	24
7	男川	28
8	雨山川及び乙女川下流	32
9	木瀬川及び犬伏川下流	36

参考資料



水質汚濁に係る環境基準の水域類型が指定されている河川（矢作川水域）

1 矢作川

1 水域の概況

矢作川は、長野県南部にそびえる大川入山（下伊那郡平谷村 標高 1,908m）の西斜面にその源を發し、愛知・岐阜県境の山間部を貫流し、愛知県の中央部を南西に流れ下り、矢作古川を分派して三河湾に注ぐ、延長約 118km（愛知県内約 100km）の一級河川である。愛知県内においては、河口から籠川合流地点（豊田市）までの約 43.6km 及び矢作ダム区間を国土交通大臣、それ以外の区間を県知事が管理している。

2 水質

（1）水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

矢作川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 1-1 のとおりである。

表 1 - 1 環境基準類型指定状況（矢作川）

水域名	区間	類型	環境基準点
矢作川上流(1)	矢作ダムより上流	A A	矢作ダム
矢作川上流	矢作ダムから明治用水頭首工まで	A	明治用水頭首工
矢作川下流	明治用水頭首工より下流	B	岩津天神橋
			米津大橋

（2）水質の汚濁の状況

BODについては、「矢作川上流（1）」の矢作ダムで平成 18 年度に環境基準を達成しなかったが、それ以外は環境基準を達成しており、概ね 1 mg/l 程度（75%値）で推移している（表 1-2）。

表1 - 2 近年の水質の状況(矢作川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値
矢作川 上流 (1) [AA]	大川橋	H19	<0.5~1.1	0.6	0.7	1 以下	7.5~8.0	6.5 ~ 8.5
		H18	<0.5~0.7	0.6	0.7		7.5~7.9	
		H17	<0.5~1.2	0.6	0.6		7.4~7.8	
		H16	<0.5~1.3	0.7	0.5		7.3~7.8	
		H15	<0.5~1.0	0.6	0.7		7.1~7.7	
	矢作ダム	H19	<0.5~1.2	0.9	1.0		7.1~9.8	
		H18	<0.5~2.1	1.1	1.3		7.0~8.9	
		H17	<0.5~1.3	0.7	0.7		7.0~8.5	
		H16	<0.5~3.3	0.9	0.8		6.9~8.4	
		H15	<0.5~4.3	1.0	0.9		6.9~9.3	
矢作川 上流 [A]	富国橋	H19	<0.5~2.0	0.7	0.6	2 以下	6.5~7.7	6.5 ~ 8.5
		H18	0.5~1.4	0.8	1.0		6.5~7.4	
		H17	0.5~1.9	1.0	1.1		6.8~8.1	
		H16	<0.5~1.7	0.8	1.0		6.8~7.7	
		H15	<0.5~1.3	0.8	0.9		6.3~7.5	
	明治用水 頭首工	H19	<0.5~2.0	0.9	1.1		7.1~7.7	
		H18	<0.5~1.4	0.7	0.8		7.1~7.8	
		H17	<0.5~1.6	0.8	1.1		7.1~8.1	
		H16	<0.5~1.8	0.8	0.9		7.0~7.6	
		H15	<0.5~1.1	0.7	0.8		7.0~7.7	
矢作川 下流 [B]	岩津天神 橋	H19	<0.5~1.7	0.9	1.0	3 以下	7.1~7.8	6.5 ~ 8.5
		H18	<0.5~1.3	0.7	0.8		7.3~8.2	
		H17	<0.5~4.0	1.0	1.0		7.2~8.1	
		H16	<0.5~5.8	1.1	0.8		7.0~7.6	
		H15	<0.5~1.3	0.7	0.9		7.1~9.3	
	木戸	H19	<0.5~1.2	0.8	1.1		7.1~7.6	
		H18	<0.5~1.1	0.7	0.7		7.2~7.7	
		H17	<0.5~1.4	0.8	1.0		7.1~7.4	
		H16	<0.5~1.0	0.7	0.9		7.0~7.2	
		H15	<0.5~1.2	0.7	0.8		7.0~7.4	
	米津大橋	H19	<0.5~1.7	0.8	1.1		7.1~7.7	
		H18	<0.5~1.4	0.7	0.7		7.2~8.3	
		H17	<0.5~1.7	0.8	1.0		7.1~8.5	
		H16	<0.5~1.1	0.7	0.9		6.9~7.3	
		H15	<0.5~1.2	0.7	0.8		7.0~7.9	
	中畑橋 (伏見屋)	H19	<0.5~1.1	0.8	1.0		7.1~7.8	
H18		<0.5~1.3	0.7	0.8	7.3~8.2			
H17		<0.5~2.2	0.9	1.0	7.2~8.1			
H16		<0.5~1.3	0.8	0.8	7.0~7.6			
H15		<0.5~2.4	1.0	1.2	7.1~9.3			

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/l)			SS (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
矢作川 上流 (1) [AA]	大川橋	H19	8.9~14	12	7.5 以上	<1~2	1	25 以下	230~4900	1800	50 以下
		H18	8.5~14	11		<1~2	1		220~22000	4000	
		H17	8.2~14	11		<1~2	1		170~24000	7200	
		H16	7.8~13	10		<1~21	3		460~35000	7100	
		H15	8.3~13	10		<1~18	5		490~35000	6100	
	矢作ダム	H19	8.5~13	11		<1~5	2		4~9200	1900	
		H18	8.5~12	10		1~4	2		13~13000	2900	
		H17	7.7~12	9.8		1~5	2		33~17000	1700	
		H16	7.9~12	9.9		1~38	6		2~13000	2200	
		H15	8.0~12	10		1~8	4		49~7900	1800	
矢作川 上流 [A]	富国橋	H19	8.9~13	11	7.5 以上	1~17	5	25 以下	110~1300	3200	1000 以下
		H18	6.4~12	10		<1~6	3		170~790	440	
		H17	8.1~13	11		<1~5	2		45~490	260	
		H16	8.8~13	10		<1~14	4		170~540	1300	
		H15	8.0~13	10		<1~18	5		170~490	290	
	明治用水 頭首工	H19	8.0~13	10		1~16	4		490~4900	2600	
		H18	7.4~13	9.7		1~6	4		1400~17000	9300	
		H17	7.5~13	10		1~10	4		790~17000	5900	
		H16	7.8~12	10		1~14	5		1100~160000	140000	
		H15	7.8~13	10		1~33	7		2300~240000	37000	
矢作川 下流 [B]	岩津天神 橋	H19	8.5~13	10	5 以上	1~14	5	25 以下	490~17000	5000	5000 以下
		H18	8.1~13	10		1~6	3		2300~33000	8700	
		H17	8.2~13	10		1~34	5		490~49000	15000	
		H16	7.8~12	9.9		1~12	6		1100~49000	20000	
		H15	8.0~13	10		1~35	8		1100~110000	24000	
	木戸	H19	7.8~12	9.7		1~19	5		23~13000	3700	
		H18	7.7~12	9.6		1~10	5		2200~17000	9500	
		H17	7.7~12	9.7		1~9	4		3100~13000	7300	
		H16	7.0~12	9.3		1~14	7		4600~28000	9500	
		H15	7.4~12	9.5		1~38	11		10000~79000	23000	
	米津大橋	H19	7.2~12	9.5		1~18	5		1300~13000	4300	
		H18	7.5~12	9.7		1~10	5		3300~79000	19000	
		H17	7.5~13	9.8		1~9	4		1700~31000	9900	
		H16	7.1~12	9.5		1~16	7		2200~23000	9700	
		H15	7.4~12	9.6		1~58	11		2800~49000	17000	
	中畑橋 (伏見屋)	H19	6.9~12	8.9		1~15	6		790~54000	12000	
		H18	7.1~12	9.3		2~10	6		3300~11000	23000	
		H17	6.8~12	8.9		1~9	6		2200~7900	5800	
		H16	6.7~12	9.2		3~17	8		2800~130000	40000	
		H15	7.0~12	9.3		4~130	22		4900~280000	64000	

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、各調査地点で概ね 0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている（表 1-3）。

表 1 - 3 全亜鉛の状況（矢作川）

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小～最大	平均	N
矢作川 上流 (1)	大川橋	H19	0.001～0.004	0.002	4
		H18	<0.005～<0.005	<0.005	1
		H17	<0.005～<0.005	<0.005	2
		H16	<0.003～0.006	0.005	2
		H15	-	-	-
	矢作ダム	H19	0.002～0.005	0.004	6
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	6
		H17	<0.01～<0.01	<0.01	6
		H16	<0.01～0.06	0.02	6
		H15	-	-	-
矢作川 上流	富国橋	H19	<0.001～0.003	0.003	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01～0.01	0.01	4
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H15	<0.01～<0.01	<0.01	2
	明治用水 頭首工	H19	0.001～0.006	0.003	12
		H18	<0.01～0.01	0.01	12
		H17	<0.01～0.01	0.01	6
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	6
		H15	<0.01～<0.01	<0.01	6
矢作川 下流	岩津天神 橋	H19	0.002～0.011	0.002	12
		H18	<0.01～0.01	0.01	12
		H17	<0.01～<0.01	<0.01	12
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	12
		H15	<0.01～<0.01	<0.01	12
	木戸	H19	0.001～0.014	0.006	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	-	-	-
		H16	-	-	-
		H15	-	-	-
	米津大橋	H19	0.003～0.018	0.006	12
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	12
		H17	<0.01～<0.01	<0.01	12
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	12
		H15	<0.01～0.01	0.01	12
	中畑橋 (伏見屋)	H19	0.005～0.013	0.005	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	-	-	-
		H16	-	-	-
		H15	-	-	-

備考 「N」は、測定回数。平成 19 年度から定量下限値が 0.001mg/l となった。(以下同じ)

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については、「矢作川上流(1)」では22~25程度、「矢作川上流」では24~27程度、「矢作川下流」では27~30程度の範囲である。各年度の平均水温の最近5年間の平均値については、「矢作川上流(1)」では12~15程度、「矢作川上流」では14~16程度、「矢作川下流」では16~17程度の範囲である。各年度の最低水温の最近5年間の平均値については、「矢作川上流(1)」では2~4程度、「矢作川上流」では4~5程度、「矢作川下流」では概ね5前後である(表1-4)。

表1-4 水温の状況(矢作川)

水域名	調査地点	年度	水温()			
			最高	平均	最低	N
矢作川 上流 (1)	大川橋	H19	21.6	12.6	2.1	12
		H18	21.1	12.4	1.9	12
		H17	23.8	12.8	3.1	12
		H16	23.0	12.8	2.0	12
		H15	21.6	12.3	2.0	12
		平均	22.2	12.6	2.2	-
	矢作ダム	H19	25.4	15.9	3.9	12
		H18	23.1	14.4	4.1	12
		H17	27.4	14.9	2.7	12
		H16	26.4	15.6	4.2	12
		H15	25.4	14.7	3.4	12
		平均	25.5	15.1	3.7	-
矢作川 上流	富国橋	H19	23.5	14.2	5.0	12
		H18	22.6	14.9	5.5	12
		H17	27.1	14.6	3.8	12
		H16	24.5	14.2	3.8	12
		H15	22.4	13.3	4.1	12
		平均	24.0	14.2	4.4	-
	明治用水 頭首工	H19	25.9	16.4	5.0	24
		H18	24.9	15.9	5.0	24
		H17	28.7	16.6	4.6	24
		H16	27.8	16.4	5.4	24
		H15	25.6	15.1	5.0	24
		平均	26.6	16.1	5.0	-

水域名	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最低	N
矢作川 下流	岩津天神 橋	H19	26.2	16.8	5.2	24
		H18	24.4	16.2	6.2	24
		H17	30.9	17.1	5.1	24
		H16	29.4	16.7	5.5	24
		H15	26.0	15.2	6.0	24
		平均	27.4	16.4	5.6	-
	木戸	H19	29.6	18.7	6.1	12
		H18	26.3	16.2	6.5	12
		H17	29.5	17.0	5.8	12
		H16	28.8	16.6	4.0	12
		H15	28.5	15.1	5.3	12
		平均	28.5	16.7	5.5	-
	米津大橋	H19	29.6	17.4	4.3	24
		H18	27.8	17.1	6.0	24
		H17	33.0	17.7	5.0	24
		H16	31.0	17.2	4.3	24
		H15	29.8	15.6	4.7	24
		平均	30.2	17.0	4.9	-
	中畑橋 (伏見屋)	H19	26.3	17.6	5.5	12
		H18	28.1	17.8	8.4	12
		H17	31.0	18.1	5.7	12
		H16	31.0	18.0	3.9	12
		H15	29.4	15.3	0.5	12
		平均	29.2	17.4	4.8	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、上流部では主に石や岩盤で構成されており、明治用水頭首口よりも下流部では主に砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

矢作川では、藤井床固、明治用水頭首工、越戸ダム、阿摺ダム、百月ダム、笹戸ダム、矢作第1ダム、矢作第2ダム、押山ダムと下流より上流にかけて多くのダムや堰が設置されている。なお、矢作第1ダム及び矢作第2ダムを除く他のダムや堰には魚道が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類 (生物 A)

矢作川上流 (1)	アマゴ (上郷大橋、河上瀬橋、大川橋) ニッコウイワナ (上郷大橋)
矢作川上流	確認されていない
矢作川下流	確認されていない

温水性の魚介類 (生物 B)

矢作川上流 (1)	オイカワ、ウグイ、スジエビ、ドジョウ
矢作川上流	テナガエビ、スジエビ、ヌカエビ、モクズガニ、コイ、ゲンゴロウフナ、ギンブナ、オイカワ、ウグイ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ
矢作川下流	ヤマトシジミ、テナガエビ、スジエビ、ヌカエビ、モクズガニ、ウナギ、コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、オイカワ、ドジョウ、ナマズ、ボラ、トウヨシノボリ

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

岩津天神橋 (矢作川下流水域の環境基準点) よりも上流で漁業権 (アユ、アマゴ、コイ、フナ、オイカワ、ウグイ、ウナギ) が設定されている。

魚類放流場所

河上瀬橋（「矢作川上流（１）」）よりも上流でアマゴ、ニジマス、アユ、ウナギを放流している。

岩津天神橋から河上瀬橋でコイ、フナ、アユ、ウナギを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

矢作川における魚類の生息状況について、矢作川漁業協同組合、名倉川漁業協同組合、豊田市矢作川研究所、碧南海浜水族館、国土交通省水辺体験共生館からヒアリングを行った結果は以下のとおりである。

矢作ダムよりも上流（「矢作川上流（１）」）ではアマゴ、イワナ、オイカワ、ウグイがみられる。ダムの上流には天然のアマゴがいるかもしれない。昔に比べ魚の数や種類が減った気がする。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

なお、アユの産卵保護禁漁区として、明治用水頭首工より旧名鉄鉄橋跡の区間を矢作川漁業協同組合が設定しており（期間10月16日から11月15日）、既存資料によると、矢作川における主なアユの産卵場として、西広瀬小学校前、高橋付近、葵大橋付近、米津大橋付近の4箇所が挙げられている。

2 巴川

1 水域の概況

巴川は、旧作手村（現在の新城市）と旧額田町（現在の岡崎市）の境にある巴山（標高 719m）にその源を発し、旧下山村（現在の豊田市）の三河湖を経て、旧足助町（現在の豊田市）の香嵐渓付近で足助川を合流し、豊田市と岡崎市の境にある細川頭首工付近で矢作川に合流する延長約 56km の一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

巴川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 2-1 のとおりである。

表 2 - 1 環境基準類型指定状況（巴川）

水域名	区間	類型	環境基準点
巴川	全域	A	細川頭首工

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、概ね 1mg/l 以下（75%値）で推移している（表 2-2）。

表 2 - 2 近年の水質の状況（巴川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値
巴川 [A]	細川頭首工	H19	<0.5~1.0	0.7	0.7	2 以 下	6.8~7.5	6.5 ~ 8.5
		H18	<0.5~6.2	1.1	0.7		6.5~7.2	
		H17	<0.5~1.7	0.8	0.6		6.9~7.3	
		H16	<0.5~1.6	0.8	0.5		6.8~7.3	
		H15	<0.5~1.3	0.7	0.7		7.0~7.3	

水域名 [類型]	調査地点	年度	D O (mg/l)			S S (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
巴川 [A]	細川頭首 工	H19	7.3~11	9.6	7.5 以 上	<1~5	1	25 以 下	1700~46000	15000	1000 以下
		H18	5.4~12	9.3		<1~4	1		230~110000	41000	
		H17	5.8~12	8.6		<1~7	1		1700~130000	22000	
		H16	7.1~11	9.2		<1~5	3		2200~54000	19000	
		H15	7.1~11	8.8		<1~17	5		3500~160000	42000	

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛については、いずれの年度も 0.01mg/l 未満で環境基準値を下回っている (表 2-3)。

表 2 - 3 全亜鉛の状況 (巴川)

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小~最大	平均	N
巴川	細川頭首 工	H19	<0.001~0.001	0.001	4
		H18	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H16	<0.01~<0.01	<0.01	5
		H15	<0.01~<0.01	<0.01	4

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 27 程度で、平均水温の最近 5 年間の平均値については 15 程度、最低水温の最近 5 年間の平均値については 4 程度である (表 2-4)。

表 2 - 4 水温の状況 (巴川)

水域名	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最低	N
巴川	細川頭首 工	H19	25.5	15.2	4.5	12
		H18	27.4	15.1	3.5	12
		H17	28.8	15.0	2.6	12
		H16	26.2	15.1	5.3	12
		H15	27.8	15.0	4.4	12
		平均	27.1	15.1	4.1	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、下流部では砂で構成されている部分も見られるが、主に石や岩盤で構成されている。

(2) 主な河川構造物

巴川では、細川頭首工、白瀬発電所堰堤、足助発電所川端取水口堰堤、盛岡堰堤、巴川水力発電所平瀬堰堤、羽布ダム（三河湖）と下流から上流にかけてダムや堰堤が設置されている。なお、細川頭首工、白瀬発電所堰堤、足助発電所川端取水口堰堤には魚道が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

巴川	ニジマス（大羽橋）
----	-----------

支川にニジマスの養魚場がある。

温水性の魚介類（生物B）

巴川	スジエビ、モクズガニ、フナ類、オイカワ、ウグイ、ドジョウ、ナマズ、シマヨシノボリ、オオヨシノボリ、トウヨシノボリ、ヨシノボリ類
----	---

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

三河湖を含め巴川全域で漁業権（アユ、アマゴ、ニジマス、コイ、フナ、オイカワ、ウグイ、ウナギ）が設定されている。

魚類放流場所

三河湖を除き全域でアユ、オイカワ、ウナギ、コイ、フナを放流している。毎年ではないが恵帽子橋から上流でアマゴ放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

巴川における魚類の生息状況について、巴川漁業協同組合、碧南海浜水族館、からヒアリングを行った結果は以下のとおりである。

アマゴは主に支川（足助川など）に放流している。巴川本川では羽布ダムより上流で放流している。アマゴは春に稚魚の状態に放流するが、夏になると巴川本川ではみられなくなる。巴川本川ではアマゴの生息は困難であろう。ヤマメやイワナはいない。昔に比べすべての魚種が減っている。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

3 乙川

1 水域の概況

乙川は、旧額田町（現在の岡崎市）にその源を発し、旧額田町内を流れ下り、男川を合流し、岡崎市の市街地を経て矢作川に合流する、延長約 34km の一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

（1）水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

乙川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 3-1 のとおりである。

表 3 - 1 環境基準類型指定状況（乙川）

水域名	区間	類型	環境基準点
乙川上流	岡崎市取水口より上流	A	岡崎上水道取入口
乙川下流	岡崎市取水口より下流	B	占部用水取入口（六名）

（2）水質の汚濁の状況

BODについては、「乙川下流」の占部用水取入口で平成 17 年度に環境基準を達成しなかったが、それ以外は 2 mg/l 前後（75%値）で推移しており、環境基準を達成している。「乙川上流」については環境基準を達成しており、概ね 1 mg/l 前後（75%値）で推移している（表 3-2）。

表3 - 2 近年の水質の状況（乙川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	平均	基準 値
乙川上流 [A]	岡崎上水道取入口	H19	<0.5~2.0	1.0	1.1	2 以 下	7.0~7.5	6.5 ~ 8.5
		H18	<0.5~6.3	1.2	1.0		6.6~7.2	
		H17	<0.5~2.0	1.0	1.3		6.9~7.1	
		H16	<0.5~1.9	0.9	1.0		6.7~7.3	
		H15	<0.5~1.3	0.8	0.9		7.1~7.3	
乙川下流 [B]	占部用水取入口 (六名)	H19	<0.5~6.5	1.8	2.2	3 以 下	7.1~8.7	6.5 ~ 8.5
		H18	0.6~2.9	2.2	2.2		6.7~7.9	
		H17	<0.5~3.8	2.3	3.3		6.9~8.0	
		H16	<0.5~3.0	1.5	2.1		6.9~7.7	
		H15	1.1~4.1	1.8	1.8		7.1~7.3	

水域名 [類型]	測定地点	年度	DO (mg/l)			SS (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
乙川上流 [A]	岡崎上水道取入口	H19	7.3~11	9.6	7.5 以 上	<1~3	2	25 以 下	2300~110000	26000	1000 以下
		H18	5.3~12	9.3		<1~3	2		790~130000	37000	
		H17	5.4~12	8.6		<1~11	3		3300~430000	53000	
		H16	7.1~12	9.2		<1~2	1		2200~160000	32000	
		H15	6.0~11	8.8		<1~7	2		3300~160000	57000	
乙川下流 [B]	占部用水取入口 (六名)	H19	7.1~11	9.6	5 以 上	1~7	4	25 以 下	1100~54000	24000	5000 以下
		H18	5.1~11	9.6		1~12	3		1300~540000	100000	
		H17	4.7~11	9.6		1~6	3		4900~79000	32000	
		H16	6.9~11	9.6		1~4	2		3500~92000	27000	
		H15	4.8~10	9.6		<1~8	4		13000~160000	80000	

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、各調査地点で 0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている
（表 3-3）。

表 3 - 3 全亜鉛の状況（乙川）

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小～最大	平均	N
乙川上流	岡崎上水道取入口	H19	<0.001～0.002	0.002	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	5
		H15	<0.01～<0.01	<0.01	4
乙川下流	占部用水取入口（六名）	H19	0.004～0.014	0.007	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	5
		H15	-	-	-

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については、「乙川上流」では 28 程度、「乙川下流」では 30 程度である。各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については、「乙川上流」では 16 程度、「乙川下流」では 18 程度である。各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については、「乙川上流」では 5 程度、「乙川下流」では 7 程度である（表 3-4）。

表 3 - 4 水温の状況（乙川）

水域名	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最低	N
乙川上流	岡崎上水道取入口	H19	27.5	16.0	5.0	12
		H18	29.1	15.9	5.5	12
		H17	28.1	15.8	3.7	12
		H16	26.5	15.8	5.7	12
		H15	26.5	16.1	5.5	12
		平均	27.7	15.9	5.1	-
乙川下流	占部用水取入口（六名）	H19	27.8	18.5	8.0	12
		H18	31.1	18.5	7.5	12
		H17	29.7	18.4	6.1	12
		H16	30.0	18.2	7.2	12
		H15	28.7	17.2	6.5	12
		平均	29.5	18.2	7.1	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、「乙川上流」では主に石や礫、岩盤で構成されており、「乙川下流」では主に石や礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

乙川では、乙川頭首工、日清堰、大平堰、丸山堰があり、いずれも魚道が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

乙川上流	アマゴ（聚楽台ビレッジ）
乙川下流	確認されていない

温水性の魚介類（生物B）

乙川上流	モクズガニ、ウナギ、コイ、フナ類、オイカワ、ウグイ、ドジョウ、ナマズ、シマヨシノボリ
乙川下流	ウナギ、フナ類、ナマズ、コイ、オイカワ

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

乙川全域で漁業権（アユ、アマゴ、コイ、フナ、オイカワ、ウナギ）が設定されている。

魚類放流場所

美保橋付近（「乙川上流」）よりも上流でアユ、ウナギを放流している。聚楽台ビレッジ（「乙川上流」）よりも上流でアマゴを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

乙川における魚類の生息状況について、男川漁業協同組合、碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果は以下のとおりである。

アマゴは漁協としては主として、乙川では天神橋付近（毛呂川合流部）より上流において放流している。それ以外の場所は放流しても水温が高くアマゴがすぐにいなくなるので放流していない。アマゴが出現する範囲としては、天神橋付近より上流と考えられる。昔は本川でもアマゴがよくみられた記憶がある。昔に比べ魚の数や種類が減った気がする。外来種が増えた。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

4 鹿乗川

1 水域の概況

鹿乗川は、岡崎市の西部にその源を発し、安城市内を流下し西鹿乗川を合流した後、碧南市内で矢作川に合流する延長約 16km の一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

（1）水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

鹿乗川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 4-1 のとおりである。

表 4 - 1 環境基準類型指定状況（鹿乗川）

水域名	区間	類型	環境基準点
鹿乗川	全域	C	米津小橋

（2）水質の汚濁の状況

BODについては、5 mg/l 前後（75%値）で推移しており、平成 15 年度、16 年度、18 年度に環境基準を達成しなかった（表 4-2）。

表 4 - 2 近年の水質の状況（鹿乗川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH		DO (mg/l)			SS (mg/l)		
			最小 ～ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ～ 最大	基準 値	最小 ～ 最大	平均	基準 値	最小 ～ 最大	平均	基準 値
鹿乗川 [C]	米津小橋	H19	2.0～ 8.7	4.3	4.6	5 以下	6.7～ 7.2	6.5 ～ 8.5	4.7～ 8.4	6.8	5 以上	4～ 28	11	50 以下
		H18	2.2～ 6.1	4.3	5.2		6.7～ 7.0		5.8～ 8.0	6.8		3～ 51	15	
		H17	2.4～ 6.0	4.1	4.7		6.8～ 7.1		4.8～ 9.8	6.7		3～ 19	11	
		H16	2.8～ 10	4.5	5.3		6.8～ 7.2		5.4～ 10	6.8		4～ 64	20	
		H15	3.3～ 8.1	4.8	5.1		6.8～ 7.3		5.7～ 9.4	7.1		4～ 51	17	

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、平成 16 年度に環境基準値を超過しているが、それ以外は環境基準値を下回っている（表 4-3）。

表 4 - 3 全亜鉛の状況（鹿乗川）

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小～最大	平均	N
鹿乗川	米津小橋	H19	0.011～0.023	0.017	4
		H18	0.01～0.02	0.01	4
		H17	<0.01～0.02	0.02	4
		H16	0.02～0.09	0.06	4
		H15	0.01～0.02	0.01	4

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 29 程度で、平均水温の最近 5 年間の平均値については 18 程度、最低水温の最近 5 年間の平均値については 6 程度である（表 4-4）。

表 4 - 4 水温の状況（鹿乗川）

水域名	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最低	N
鹿乗川	米津小橋	H19	27.0	17.3	8.0	12
		H18	29.0	18.0	8.3	12
		H17	31.5	17.7	3.9	12
		H16	28.6	18.2	5.5	12
		H15	29.0	17.3	6.0	12
		平均	29.0	17.7	6.3	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

鹿乗川では、鹿乗川堰が設置されているが、魚道は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

鹿乗川	確認されていない
-----	----------

温水性の魚介類（生物B）

鹿乗川	スジエビ、モクズガニ、ウナギ、コイ、ギンプナ、ゲンゴロウブナ、フナ類、オイカワ、ドジョウ、ナマズ、トウヨシノボリ
-----	--

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしてない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

5 矢作古川

1 水域の概況

矢作古川は、西尾市内で矢作川から分かれ、西尾市内を広田川と並行に流下し、吉良町と一色町との境で広田川を合わせ三河湾に注ぐ、延長約 14km の一級河川である（県知事が管理）。

矢作古川はかつて矢作川の本流であったが、氾濫を抑えるため江戸時代初期に西尾市と安城市、碧南市の境に新たに開いた水路が現在の矢作川の本流となった。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

矢作古川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 5-1 のとおりである。

表 5 - 1 環境基準類型指定状況（矢作古川）

水域名	区間	類型	環境基準点
矢作古川	全域	C	古川頭首工

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、概ね 2mg/l 以下（75%値）で推移している（表 5-2）。

表 5 - 2 近年の水質の状況（矢作古川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH		DO (mg/l)			SS (mg/l)		
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
矢作古川 [C]	古川頭首工	H19	0.5~ 3.3	1.3	1.1	5 以下	6.3~ 7.5	6.5 ~ 8.5	6.4~ 12	9.5	5 以上	2~15	7	50 以下
		H18	0.7~ 2.6	1.6	1.9		6.8~ 7.3		7.3~ 11	9.1		3~12	7	
		H17	0.8~ 4.3	1.9	2.1		6.6~ 9.0		7.2~ 12	10		1~17	6	
		H16	0.5~ 1.6	1.0	1.3		6.6~ 7.1		5.1~ 13	9.0		1~12	7	
		H15	0.5~ 4.8	1.3	1.1		6.7~ 7.7		6.7~ 12	9.4		2~16	8	

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている（表5-3）。

表5-3 全亜鉛の状況（矢作古川）

水域名	調査地点	年度	全亜鉛（mg/l）		
			最小～最大	平均	N
矢作古川	古川頭首工	H19	0.001～0.006	0.003	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H15	-	-	-

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については29 程度で、平均水温の最近5年間の平均値については18 程度、最低水温の最近5年間の平均値については6 程度である（表5-4）。

表5-4 水温の状況（矢作古川）

水域名	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最低	N
矢作古川	古川頭首工	H19	26.1	16.6	6.2	12
		H18	28.2	17.9	7.1	12
		H17	29.8	17.7	5.3	12
		H16	29.5	18.5	5.7	12
		H15	28.9	17.5	5.6	12
		平均	28.5	17.6	6.0	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂や礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

矢作古川では、古川頭首工が設置されているが、魚道は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

矢作古川	確認されていない
------	----------

温水性の魚介類（生物B）

矢作古川	スジエビ、モクズガニ、テナガエビ、ウナギ、コイ、フナ類、オイカワ、ボラ、シマヨシノボリ
------	---

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしてない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

6 ^{けんぎ} 介木川

1 水域の概況

介木川は、旧足助町（現在の豊田市）にその源を発し、旧旭町（現在の豊田市）を流れ下り矢作川と合流する、延長約 10km の一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

（1）水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

介木川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 6-1 のとおりである。

表 6 - 1 環境基準類型指定状況（介木川）

水域名	区間	類型	環境基準点
介木川	全域	A	小渡新橋

（2）水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、1mg/l 以下（75%値）で推移している（表 6-2）。

表 6 - 2 近年の水質の状況（介木川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基 準 値	最小 ~ 最大	基 準 値
介木川 [A]	万町浄水 場取入口	H19	<0.5~0.9	0.6	<0.5	2 以 下	6.8~7.8	6.5 ~ 8.5
		H18	<0.5~0.9	0.6	0.6		6.5~7.8	
		H17	<0.5~1.1	0.7	0.8		6.3~7.7	
		H16	<0.5~1.2	0.7	0.8		7.2~7.7	
		H15	<0.5~0.7	0.5	0.5		7.6~7.8	
	小渡新橋	H19	<0.5~1.4	0.7	0.7		6.9~7.9	
		H18	<0.5~1.6	0.8	0.8		6.5~7.9	
		H17	<0.5~1.3	0.8	0.8		6.5~7.7	
		H16	<0.5~1.9	0.9	0.9		7.2~7.8	
		H15	<0.5~1.8	0.7	0.6		7.6~8.1	

水域名 [類型]	調査地点	年度	D O (mg/l)			S S (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
介木川 [A]	万町浄水 場取入口	H19	8.3~14	10	7.5 以 上	<1~5	3	25 以 下	230~130000	16000	1000 以 下
		H18	7.3~12	9.9		<1~6	2		790~5400	2300	
		H17	8.4~12	10		<1~5	1		78~4900	1700	
		H16	8.4~13	11		<1~9	3		130~33000	5800	
		H15	8.6~13	10		<1~2	1		79~11000	3100	
	小渡新橋	H19	8.7~13	11		<1~6	3		1300~17000	7400	
		H18	7.4~12	10		<1~7	3		2400~16000	8300	
		H17	8.8~13	11		<1~4	1		1100~54000	17000	
		H16	8.8~13	11		<1~6	3		1300~33000	9800	
		H15	8.5~13	10		<1~5	2		220~7900	2900	

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

平成 16 年度に小渡新橋で環境基準値を超過したが、それ以外は 0.01mg/l 以下で推移している (表 6-3)。

表 6 - 3 全亜鉛の状況 (介木川)

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小~最大	平均	N
介木川	万町浄水 場取入口	H19	<0.001~0.002	0.002	4
		H18	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01~0.01	0.01	4
		H16	-	-	-
		H15	-	-	-
	小渡新橋	H19	<0.001~0.004	0.002	4
		H18	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01~0.01	0.01	4
		H16	<0.01~2.0	0.51	4
		H15	-	-	-

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については23 程度で、平均水温の最近5年間の平均値については13 程度、最低水温の最近5年間の平均値については3 程度である。

表6 - 4 水温の状況（介木川）

水域名	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最低	N
介木川	万町浄水場取入口	H19	22.2	13.3	3.0	12
		H18	22.7	13.3	4.8	12
		H17	21.8	12.5	4.5	12
		H16	22.5	14.2	4.2	12
		H15	20.6	12.2	1.5	12
		平均	22.9	13.3	3.2	-
	小渡新橋	H19	22.2	13.0	3.0	12
		H18	22.2	13.5	4.4	12
		H17	22.5	12.7	3.5	12
		H16	25.0	14.5	3.2	12
		H15	22.4	12.8	2.1	12
		平均	22.9	13.3	3.2	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に石や岩盤で構成されている。

(2) 主な河川構造物

介木川では、ダムは設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

介木川	アマゴ（柿平橋、旭橋、萬町橋、介木橋）
-----	---------------------

温水性の魚介類（生物B）

介木川	オイカワ、ウグイ、トウヨシノボリ、ドジョウ
-----	-----------------------

（2）その他関連情報

漁業権設定状況

全域で漁業権（アユ、アマゴ、コイ、フナ、オイカワ、ウグイ、ウナギ）が設定されている。

魚類放流場所

全域でアマゴ、コイ、フナ、アユ、ウナギを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

介木川における魚類の生息状況について、矢作川漁業協同組合、碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果は以下のとおりである。

アマゴ、アユ、カワムツ、カワヨシノボリなどがみられる。介木川のアマゴのほとんどは放流されたものであると思う。
--

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

7 男川

1 水域の概況

男川は、旧額田町（現在の岡崎市）、旧一宮町（現在の豊川市）、旧作手村（現在の新城市）の境にある本宮山にその源を発し、旧額田町を西に流れ下り、岡崎市内で乙川と合流する延長約17kmの一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

男川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表7-1のとおりである。

表7-1 環境基準類型指定状況（男川）

水域名	区間	類型	環境基準点
男川	全域	A	学校橋

(2) 水質の汚濁の状況（表7-2）

BODについては、環境基準を達成しており、概ね1mg/l以下（75%値）で推移している（表7-2）。

表7-2 近年の水質の状況（男川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値
男川 [A]	学校橋	H19	<0.5~1.5	0.7	0.6	2 以下	7.0~7.6	6.5 ~ 8.5
		H18	<0.5~5.5	1.0	0.6		6.7~7.4	
		H17	<0.5~1.7	0.7	0.8		6.9~7.5	
		H16	<0.5~1.3	0.7	0.9		6.9~7.4	
		H15	<0.5~1.0	0.7	0.8		7.1~7.5	
	南部簡易 水道浄水 場取入口	H19	<0.5~0.8	0.6	0.7		7.0~7.5	
		H18	<0.5~3.9	0.8	0.5		6.9~7.1	
		H17	<0.5~2.6	1.0	1.1		7.1~7.8	
		H16	<0.5~1.3	0.7	0.9		6.9~7.6	
		H15	<0.5~0.7	0.6	0.6		7.1~7.7	

水域名 [類型]	調査地点	年度	D O (mg/l)			S S (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
男川 [A]	学校橋	H19	8.2~12	9.8	7.5 以 上	<1~2	1	25 以 下	3300~80000	58000	1000 以 下
		H18	4.6~13	9.7		<1~3	1		2700~79000	26000	
		H17	5.7~13	9.0		<1~3	1		1700~79000	25000	
		H16	7.5~12	9.3		<1~<1	<1		1700~35000	14000	
		H15	6.4~12	9.1		<1~2	1		3500~160000	49000	
	南部簡易 水道浄水 場取入口	H19	8.1~13	10		<1~2	1		450~54000	17000	
		H18	5.3~12	9.7		<1~1	1		780~49000	15000	
		H17	7.8~13	10		<1~2	1		330~33000	8400	
		H16	8.3~13	11		<1~2	1		79~33000	5000	
		H15	8.8~13	10		<1~<1	<1		33~17000	2800	

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛については、0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている (表 7-3)。

表 7 - 3 全亜鉛の状況 (男川)

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小~最大	平均	N
男川	学校橋	H19	<0.001~0.002	0.001	4
		H18	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H16	<0.01~<0.01	<0.01	5
		H15	-	-	-

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 26 程度で、平均水温の最近 5 年間の平均値については 15 程度、最低水温の最近 5 年間の平均値については 4 程度である (表 7-4)。

表 7 - 4 水温の状況（男川）

水域名	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最低	N
男川	学校橋	H19	25.5	14.7	4.5	12
		H18	27.1	14.9	4.0	12
		H17	26.7	15.0	3.1	12
		H16	25.0	14.6	4.8	12
		H15	25.7	14.9	4.8	12
		平均	26.0	14.8	4.2	-
	南部簡易 水道浄水 場取入口	H19	24.9	14.2	4.3	12
		H18	26.7	14.2	4.0	12
		H17	25.2	14.4	4.4	12
		H16	26.8	16.3	4.0	12
		H15	25.6	15.1	4.2	12
		平均	25.8	14.8	4.2	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に石や岩盤で構成されている。

(2) 主な河川構造物

男川では、淡淵堰堤やいくつかの取水堰が設置されているが、ほとんど魚道が設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

男川	確認されていない
----	----------

温水性の魚介類（生物B）

男川	スジエビ、フナ類、コイ、オイカワ、ウナギ
----	----------------------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

男川全域で漁業権（アユ、アマゴ、コイ、フナ、オイカワ、ウナギ）が設定されている。

魚類放流場所

全域でアユ、ウナギを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

男川における魚類の生息状況について、男川漁業協同組合、碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果は以下のとおりである。

男川について、魚類調査しているがアマゴは見かけない。男川本川に放流しても水温が高くアマゴがすぐにはなくなるので、男川本川には放流していない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

8 雨山川及び乙女川下流

1 水域の概況

雨山川は、旧額田町(現在の岡崎市)南東部にその源を発し、雨山ダムを経て、乙女川と合流する延長約4kmの一級河川である(県知事が管理)。

乙女川は、旧額田町(現在の岡崎市)南東部にその源を発し、下流部で雨山川を合流した後、男川に合流する延長約4kmの一級河川である(県知事が管理)。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

雨山川及び乙女川下流における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表8-1のとおりである。

表8-1 環境基準類型指定状況(矢作川)

水域名	区間	類型	環境基準点
雨山川及び乙女川下流	全域	A	ツノジ橋

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、1mg/l以下(75%値)で推移している(表8-2)。

表8-2 近年の水質の状況(雨山川及び乙女川下流)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値
雨山川及び乙女川下流 [A]	ツノジ橋	H19	<0.5~0.9	0.6	0.6	2 以下	6.9~7.4	6.5 ~ 8.5
		H18	<0.5~1.2	0.6	<0.5		6.9~7.4	
		H17	<0.5~1.6	0.7	0.7		7.0~8.0	
		H16	<0.5~1.3	0.7	0.8		6.8~7.4	
		H15	<0.5~0.7	0.5	0.5		7.2~7.6	
	万足上橋	H19	<0.5~1.1	0.6	0.7		7.0~7.3	
		H18	<0.5~1.0	0.6	0.5		7.0~7.7	
		H17	<0.5~5.0	1.1	0.8		6.9~7.9	
		H16	<0.5~1.6	0.7	0.8		7.0~7.9	
		H15	<0.5~0.7	0.5	0.5		7.2~7.8	

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/l)			SS (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
雨山川及 び乙女川 下流 [A]	ツノジ橋	H19	8.3~12	9.9	7.5 以上	<1~4	2	25 以下	130~17000	6100	1000 以下
		H18	4.6~12	9.3		<1~2	1		790~33000	12000	
		H17	7.6~12	9.9		<1~4	2		230~33000	6100	
		H16	7.8~13	9.9		<1~3	2		230~33000	8900	
		H15	8.2~12	9.8		<1~1	1		49~7000	1400	
	万足上橋	H19	8.4~12	10		<1~1	1		200~17000	6100	
		H18	5.3~12	9.2		<1~4	1		930~79000	12000	
		H17	7.9~13	10		<1~2	1		230~7900	6100	
		H16	7.9~13	10		<1~2	1		79~23000	8900	
		H15	8.3~13	10		<1~1	1		33~7900	1400	

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛については、0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている (表 8-3)。

表 8 - 3 全亜鉛の状況 (雨山川及び乙女川下流)

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小~最大	平均	N
雨山川 及び乙 女川下 流	ツノジ橋	H19	<0.001~<0.001	<0.001	4
		H18	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01~<0.01	<0.01	3
		H16	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H15	-	-	-

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 25 程度で、平均水温の最近 5 年間の平均値については 15 程度、最低水温の最近 5 年間の平均値については 4 程度である (表 8-4)。

表 8 - 4 水温の状況（雨山川及び乙女川下流）

水域名	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最低	N
雨山川及び乙女川下流	ツノジ橋	H19	23.8	13.7	4.2	12
		H18	26.8	14.0	4.2	12
		H17	24.3	14.5	5.2	12
		H16	25.0	16.4	4.2	12
		H15	23.7	15.3	4.6	12
		平均	24.7	14.8	4.5	-
	万足上橋	H19	24.8	13.9	4.0	12
		H18	25.0	14.0	4.8	12
		H17	26.2	14.6	4.8	12
		H16	26.2	16.5	3.9	12
		H15	24.2	15.2	4.0	12
		平均	25.3	14.8	4.3	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に石や岩盤で構成されている。

(2) 主な河川構造物

乙女川下流では堰が、雨山川では雨山ダムが設置されているが、いずれも魚道は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類（生物A）

雨山川及び乙女川下流	確認されていない
------------	----------

温水性の魚介類（生物B）

雨山川及び乙女川下流	ドジョウ、オイカワ
------------	-----------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

雨山川及び乙女川下流全域で漁業権（アユ、アマゴ、コイ、フナ、オイカワ、ウナギ）が設定されている。

魚類放流場所

雨山川及び乙女川下流全域でアユ、ウナギを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

雨山川及び乙女川下流における魚類の生息状況について、男川漁業協同組合、碧南海浜水族館からヒアリングを行った結果は以下のとおりである。

雨山川について、魚類調査しているがアマゴは見かけない。乙女川下流の支川であるの河原川ではアマゴを放流しているが、本川では放流しても水温が高くアマゴがすぐになくなるので、雨山川及び乙女川下流の本川では放流していない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

9 木瀬川及び犬伏川下流

1 水域の概況

木瀬川は、旧藤岡町（現在の豊田市）と岐阜県土岐市の境にある三国山にその源を發し、木瀬ダム（しらすぎ湖）を経て、旧藤岡町内で犬伏川に合流する延長約 12km の一級河川である（県知事が管理）。

犬伏川は、旧小原村（現在の豊田市）にその源を發し、下流の旧藤岡町内で木瀬川を合流した後、矢作川に合流する延長約 17km の一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

木瀬川及び犬伏川下流における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は表 9-1 のとおりである。

表 9 - 1 環境基準類型指定状況（木瀬川及び犬伏川下流）

水域名	区間	類型	環境基準点
木瀬川及び犬伏川下流	全域	A	堀越橋

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、概ね 1mg/l 以下（75%値）で推移している（表 9-2）。

表 9 - 2 近年の水質の状況（木瀬川及び犬伏川下流）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値
木瀬川及 び犬伏川 下流 [A]	堀越橋	H19	<0.5~1.3	0.7	0.6	2 以下	7.0~7.9	6.5 ~ 8.5
		H18	<0.5~1.1	0.7	0.8		6.7~7.7	
		H17	<0.5~1.5	0.9	1.1		6.8~7.9	
		H16	<0.5~1.9	0.8	1.0		6.8~7.8	
		H15	<0.5~1.1	0.6	0.6		7.3~8.2	
	犬伏橋	H19	<0.5~1.3	0.6	<0.5		6.6~7.8	
		H18	<0.5~1.3	0.7	0.9		6.5~7.7	
		H17	<0.5~1.1	0.7	0.9		6.9~8.1	
		H16	<0.5~0.9	0.7	0.8		6.7~7.7	
		H15	<0.5~2.0	0.9	1.0		6.3~7.5	

水域名 [類型]	調査地点	年度	D O (mg/l)			S S (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
木瀬川及 び犬伏川 下流 [A]	堀越橋	H19	8.0~13	10	7.5 以上	<1~6	2	25 以下	490~24000	5800	1000 以下
		H18	6.8~12	10		<1~6	2		230~5400	2000	
		H17	8.2~13	10		<1~4	1		790~5400	2900	
		H16	8.5~13	11		<1~5	3		330~33000	12000	
		H15	8.1~13	10		<1~1	1		330~17000	6800	
	犬伏橋	H19	8.8~13	11		<1~4	2		490~17000	5200	
		H18	6.8~13	10		<1~6	2		480~9200	3200	
		H17	8.4~13	10		<1~2	1		460~5400	2100	
		H16	8.3~13	10		<1~6	2		1100~16000	61000	
		H15	8.6~13	11		<1~6	2		150~2200	1000	

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛については、0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている (表 9-3)。

表 9 - 3 全亜鉛の状況 (木瀬川及び犬伏川下流)

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小~最大	平均	N
木瀬川 及び犬 伏川下 流	堀越橋	H19	<0.001~0.005	0.003	4
		H18	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01~0.01	0.01	4
		H16	<0.01~0.01	0.01	4
		H15	-	-	-
	犬伏橋	H19	<0.001~0.004	0.002	4
		H18	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01~0.01	0.01	4
		H16	<0.01~<0.01	0.01	4
		H15	<0.01~<0.01	<0.01	4

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については25程度で、平均水温の最近5年間の平均値については14~15程度、最低水温の最近5年間の平均値については4程度である(表8-4)。

表9-4 水温の状況(木瀬川及び犬伏川下流)

水域名	調査地点	年度	水温()			
			最高	平均	最低	N
木瀬川及び犬伏川下流	堀越橋	H19	25.7	14.9	3.5	12
		H18	25.1	14.9	4.8	12
		H17	25.6	14.7	4.5	12
		H16	26.5	15.3	3.5	12
		H15	25.3	14.8	3.5	12
		平均	25.6	14.9	4.0	-
	犬伏橋	H19	24.0	13.7	4.0	12
		H18	26.0	14.3	4.2	12
		H17	24.8	14.5	4.2	12
		H16	24.4	14.2	3.6	12
		H15	24.1	13.5	3.6	12
		平均	24.7	14.0	3.7	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂や岩盤で構成されている。

(2) 主な河川構造物

木瀬川では、木瀬ダム、第2ダムが設置されているが、いずれも魚道は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

冷水性の魚介類(生物A)

木瀬川及び犬伏川下流	確認されていない
------------	----------

温水性の魚介類（生物 B）

木瀬川及び犬伏川下流	ドジョウ、オイカワ
------------	-----------

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

全域で漁業権（アユ、アマゴ、コイ、フナ、オイカワ、ウグイ、ウナギ）が設定されている。

魚類放流場所

木瀬川及び犬伏川下流全域でアユ、コイ、フナ、ウナギを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

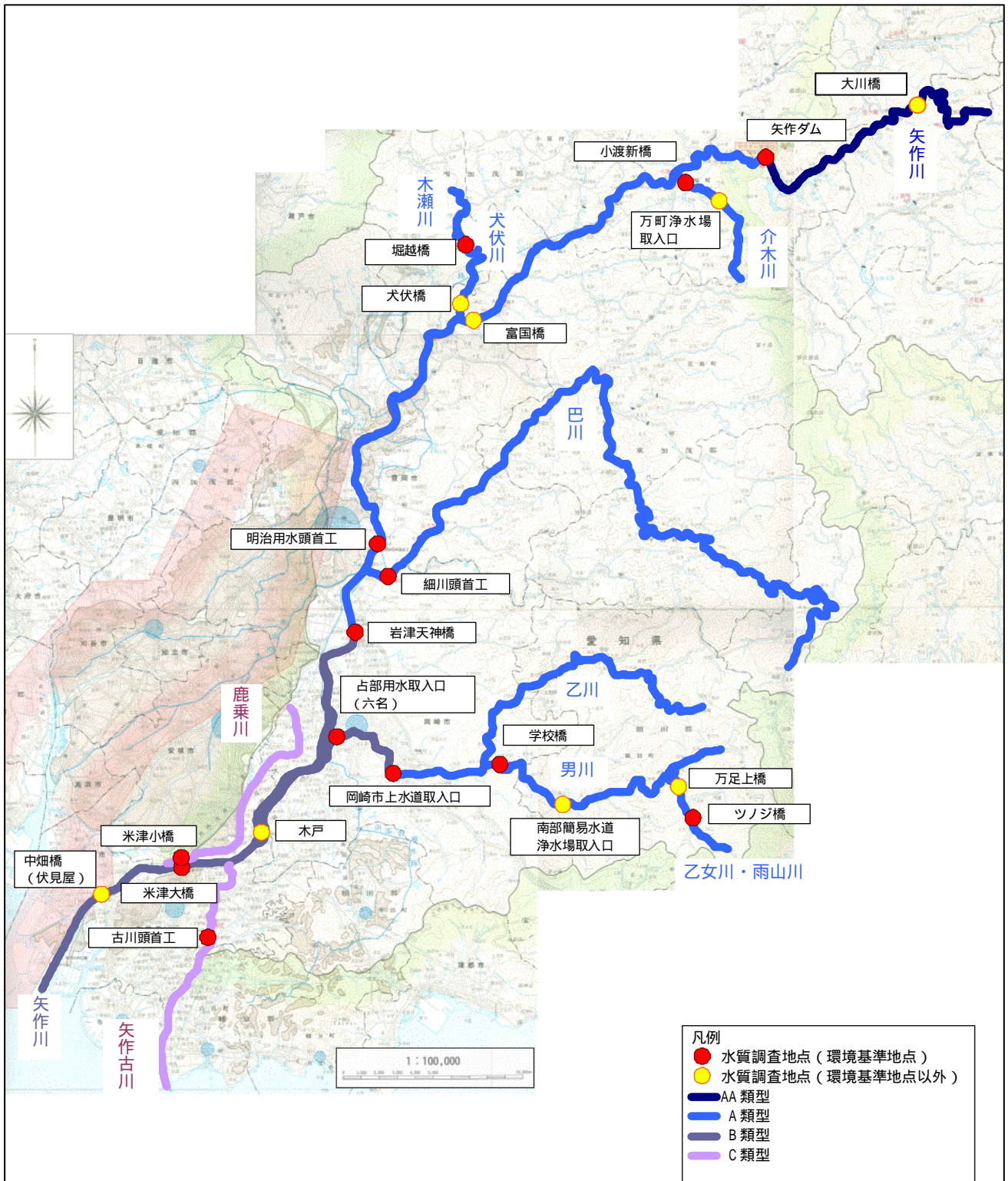
木瀬川及び犬伏川下流における魚類の生息状況について、矢作川漁業協同組合からヒアリングを行ったが、魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

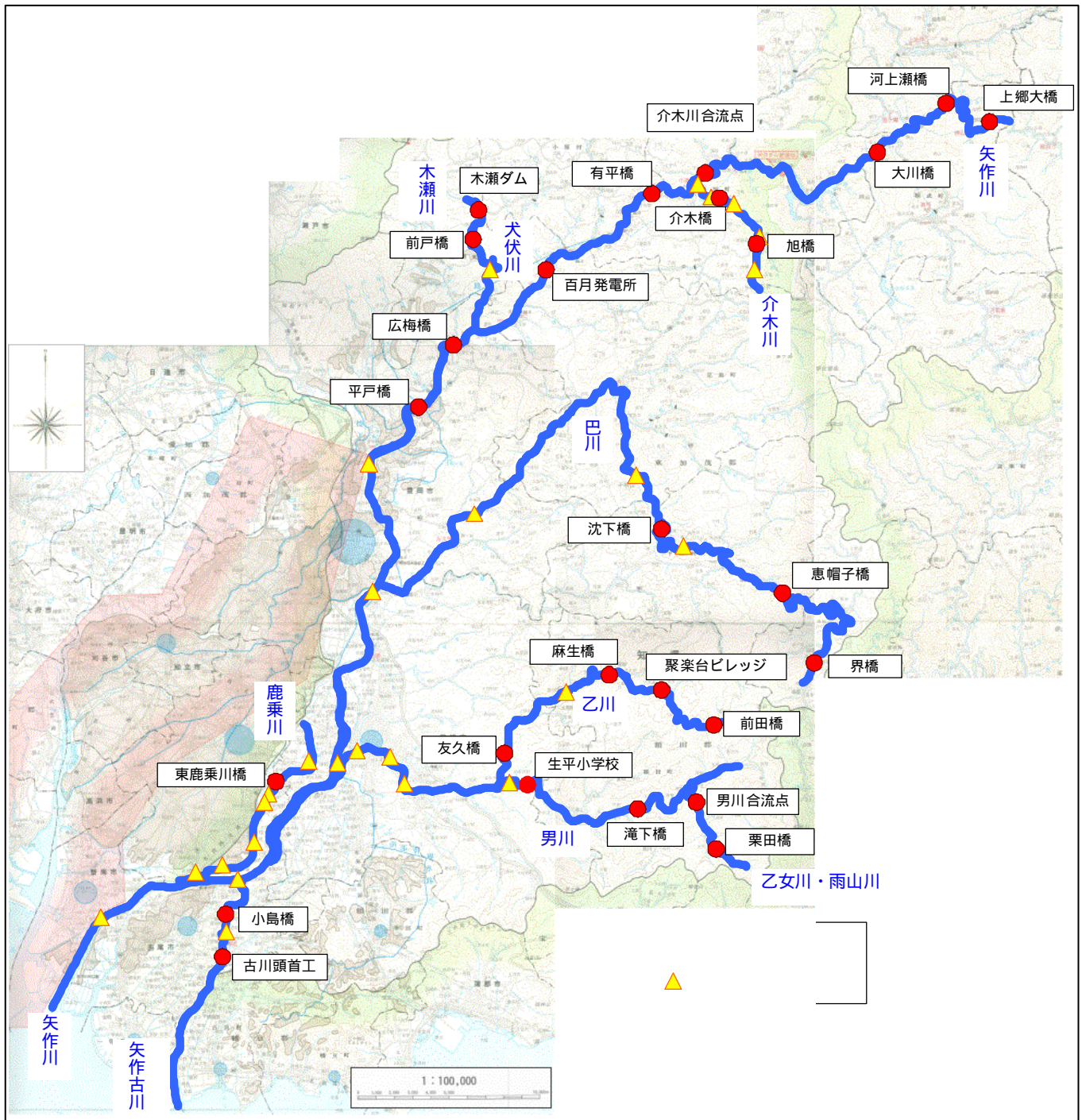
水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

【既存調査資料】

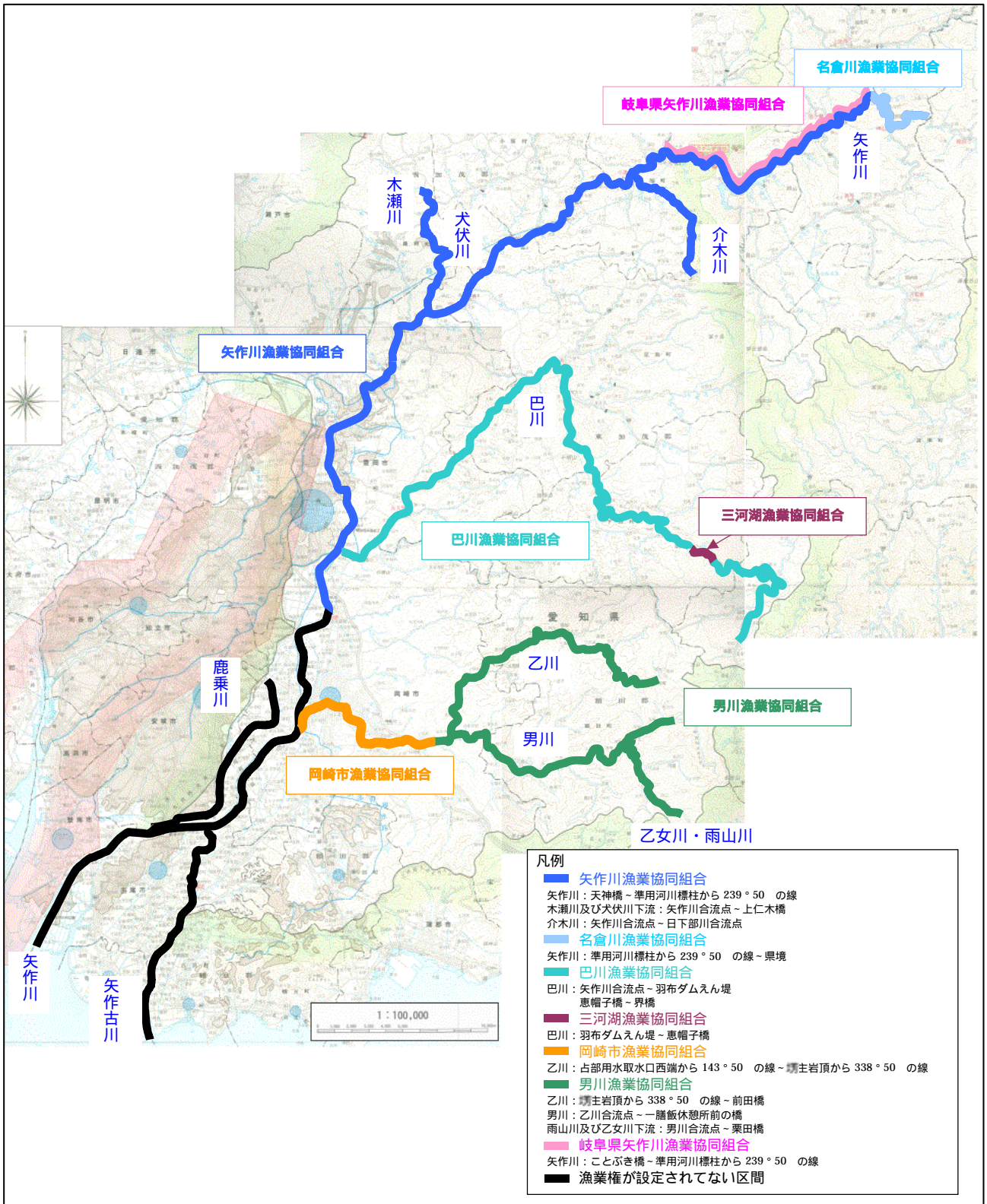
- ・平成 17 年度矢作川河川水辺の国勢調査（魚介類・底生動物）報告書（平成 18 年 3 月）
- ・平成 18 年度河川環境対策工事・河川調査費合併工事の内河川水辺の国勢調査業務委託報告書（平成 18 年 2 月）
- ・平成 18 年度河川整備促進特別工事の内乙川圏域河川整備計画流域委員会資料作成業務委託（一級河川乙川始め）報告書（平成 19 年 1 月）
- ・平成 17 年度中小河川改良工事の内調査業務委託河川水辺の国勢調査（一級河川鹿乗川）報告書（平成 18 年 1 月）
- ・平成 17 年度緊急防災対策河川工事の内設計業務委託鹿乗川河川整備計画策定業務報告書（平成 18 年 2 月）
- ・平成 11 年度河川環境対策工事の内河川水辺の国勢調査業務委託一級河川乙川始め報告書（平成 12 年 2 月）
- ・碧南海浜水族館 碧南市青少年海の科学館 年報第 11 号（1997）
- ・碧南海浜水族館 碧南市青少年海の科学館 年報第 19 号（2007）



矢作川水域における公共用水域水質調査点位置
及び水質汚濁に係る環境基準類型指定の状況



水生生物調査点図



出典：「漁業権一覧表」（平成 16 年 1 月 1 日現在・愛知県農林水産部水産課）より作成

調査対象水域における内水面漁業権図

水域類型に対応する主な魚介類

生物 A	生物 B		その他
アマゴ・サツキマス ヤマメ・サクラマス イワナ・アメマス カラフトマス サケ（シロザケ） ニジマス ヒメマス・ベニザケ カジカ（大卵型）	ウグイ オイカワ フナ類 コイ ドジョウ ナマズ 回遊性ヨシノボリ類 ウナギ ボラ	スジエビ テナガエビ ヒラテテナガエビ ミナミテナガエビ ヌカエビ モクズガニ マシジミ ヤマトシジミ	アユ ワカサギ

出典：「水生生物の保全に係る環境基準の類型指定について」
 （平成 18 年 6 月 30 日 環境省水・大気環境局水環境課長通知）